



## 市川レポート

## 日経平均株価とTOPIXについての考え方

- 週明けも日経平均株価は上昇基調維持、ただ過熱感もみられ複数の指標が買われすぎを示唆。
- 一方TOPIXは買われすぎ水準になく、日本株全体での回復基調は緩やかで、さほど過熱感なし。
- TOPIXは、一部出遅れている大型株にいくらか影響されているものの、上昇余地はあるとみている。

## 週明けも日経平均株価は上昇基調維持、ただ過熱感もみられ複数の指標が買われすぎを示唆

先週の日経平均株価は、5月7日に前営業日比3,320円72銭（5.6%）高の62,833円84銭で取引を終え、4月27日の終値ベースでの過去最高値（60,537円36銭）を大きく更新しました。この日の上げ幅は、2024年8月6日の3,217円04銭を超え、過去最大となりました。翌8日は利益確定とみられる売りに押され、下げ幅は一時700円に迫る場面もみられましたが、結局、前日比120円19銭（0.2%）安で終了しました。

しかしながら、週明け5月11日の日経平均は反発して取引が始まっており、上昇基調は継続しているとみられます。こうしたなか、相場には過熱感が出始めており、日経平均の相対力指数（RSI）は5月8日時点で買われすぎとされる70%水準に達しています。また、同日の終値（62,713円65銭）は、25日移動平均線の上方から離率5%（60,408円04銭）を超えて10%（63,284円61銭）に接近しており、買われすぎが意識される水準です。

【図表1：日経平均株価上昇に寄与した主な銘柄】

順位	銘柄/寄与度	順位	銘柄/寄与度
1	東京エレクトロン / 810.56円	6	フジクラ / 122.89円
2	ソフトバンクグループ / 733.73円	7	ファーストリテイリング / 113.44円
3	アドバンテスト / 392.21円	8	ファナック / 107.27円
4	キオクシアホールディングス / 162.62円	9	ダイキン工業 / 86.65円
5	イビデン / 136.43円	10	豊田通商 / 64.56円

(注) 2026年4月30日から5月8日までの期間における日経平均株価の上昇幅は3,428円73銭。この上昇幅に対する寄与度の大きい上位10銘柄。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【図表2：輸送用機器指数などの騰落率】

指数名	騰落率
輸送用機器指数	-1.6%
銀行業指数	0.4%
卸売業指数	1.9%
東証株価指数（TOPIX）	2.7%
日経平均株価	5.8%
フィラデルフィア半導体株指数（SOX）	12.1%
ナスダック総合株価指数	5.4%
S&P500種株価指数	2.6%
ダウ工業株30種平均	-0.1%

(注) データは2026年4月30日から5月8日。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



## 一方TOPIXは買われすぎ水準になく、日本株全体での回復基調は緩やかで、さほど過熱感なし

日経平均の上昇基調が続いている要因の1つとして、米ハイテク株の堅調な値動きが挙げられます。米国株式市場では、ハイテク株比率が高いナスダック総合株価指数や、主要な半導体関連銘柄で構成するフィラデルフィア半導体株指数（SOX）が、過去最高値を更新中です。この流れを受け、日経平均構成銘柄のうち、半導体関連の値がさ株が大きく上昇し、日経平均を大きく押し上げている様子が見られます（図表1）。

一方、東証株価指数（TOPIX）に目を向けると、RSIは5月8日時点で59.6%にとどまっており、また、同日の終値（3,829.48ポイント）は、25日移動平均線の上方乖離率5%（3,912.87ポイント）を下回っているなど、日経平均ほどの過熱感はありません。つまり、日経平均は一部値がさ株の上昇を受け、上げ幅が大きくなっているものの、日本株全体で見れば、回復基調は緩やかで、過熱感が高まっていないと判断することができます。

## TOPIXは、一部出遅れている大型株にいくらか影響されているものの、上昇余地はあるとみている

TOPIXは、値がさ株の動きに影響を受けやすい日経平均と異なり、時価総額の大きい銘柄、すなわち大型株の動きに影響を受けやすい傾向があります。東証33業種別株価指数のうち、代表的な大型株を含む輸送用機器指数（自動車）、銀行業指数（メガバンク）、卸売業指数（大手商社）の動きをみると、現時点で相対的にやや出遅れ感があり（図表2）、これがTOPIXの回復度合いにいくらか影響していると考えられます。

ただ、4月28日付レポートで解説した通り、日本株を取り巻く総じて良好な環境は変わっていないことを踏まえると、中東情勢の不透明感がもう一段後退するにつれ、出遅れている大型株にも修正が入る可能性は高まると思われます。当面は、人工知能（AI）・半導体関連企業の成長期待が、米ハイテク株や日経平均の追い風になりやすい状況が続くとみられますが、まだそれほど過熱感のないTOPIXにも、上昇余地はあるとみています。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号  
加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会